

nouvelle Fontaine

発行日 2024年4月25日

発行 岸和田文化事業協会

〒596-0073 岸和田市岸城町5-10
岸和田市立自泉会館内

TEL/FAX 072-437-3801

Email: fontaine@sensyu.ne.jp

https://jisen.jp

明日へ続く記憶 ～自泉会館の今、そして過去から未来へ～

ご存じですか？ 自泉会館のロビーで楽しめること！

自泉会館は昭和7年に岸和田紡績株式会社の社交場として設立、昭和18年に岸和田市に寄贈されました。現在は音楽ホールとして活用し、貸館の無い日に限り見学が可能です。

また令和3年度より自泉会館のロビーでは、館をより楽しんでいただく事を目的に絵画等の展示とコンサート映像投影を行っています。

絵画等は岸和田にゆかりのある方々から1作品をお借りし月替わりで展示、コンサート映像はホール・展示室の貸館の無い日10時から16時まで、当協会主催事業の映像を壁面またはモニターに投影しています。

これらをご覧になるために来館される方はもちろん、館見学者にも楽しんでいただいています。

今年度から始まる自泉会館をもっと楽しんでいただけること

当館の指定管理者である岸和田文化事業協会は、設立から20年を越えました。会員もずいぶん変わり、事業の中心にいる理事や事務員でさえ、その歴

史や建物について知らないことが多くなってきています。

「時間が経てばもっとわからなくなるに違いない」「資料を探すにも探せなくなってしまうのではないか」そんな不安を払拭すべく、現時点での知り得る内容をまとめることにしました。

歴史については伝聞されていることや書物に書かれていること、また歴史に詳しい方々の話をまとめ、建物については大阪府[※]ヘリテージマネージャーの力をお借りしました。

今のところ歴史と建物の文書は事務所の本棚に保管し、希望の方には閲覧いただけます。まだまだ足りないことや間違いもあるかもしれません。今後、判明したことがあれば文書に追記し、自泉会館の記録として残していきたいと考えています。

また、これらの文書を基に15分ほどの映像を作成し、ホールの貸館の無い月初めに投影しています。見学に来られた方には、その映像を視聴し実際のメインのホールをご覧になり、時代を越えた自泉会館の魅力をより感じていただけることと思います。

ぜひ、自泉会館へ足をお運びください。

※ヘリテージマネージャーとは 地域社会における歴史文化遺産のあり方を見据え、その保全と活用を推進 するため研鑽をつみ、地域遺産の保全活用に貢献する活動を行う人。

Music Art 'nd Theater Association



この写真は昭和初期のホールです。(浅井恵子さん提供)

- ◆見学開館時間 午前9時から午後5時 (ホール使用のない日に限る)
- ◆休館日 月曜(祝日の場合は開館、翌日休館) 年末年始 敬老の日の前日、前々日 3月の第2火曜

関東出身の小説家が、岸和田の『おばちゃん』を書いた理由とは？

小説家 泉 ゆたか

岸和田の皆さま、はじめまして。小説家の泉ゆたかと申します。

江戸時代の獣医を描いた「お江戸けもの医毛玉堂」（講談社文庫）シリーズや、睡眠専門クリニックを描いた「眠り医者ぐっすり庵」（実業之日本社文庫）シリーズなど、人情もの、お仕事ものと呼ばれる時代小説の文庫シリーズを中心に、これまでに二十冊ほどの小説を刊行している小説家です。どれもややこしいことを考えずに気楽にお読みいただけるような小説ですので、もし書店で見かけることがございましたらぜひお手にとっていただけますと嬉しいです。

特に「眠り医者ぐっすり庵」は、全国の病院内、入院患者さん用コンビニでもお取り扱いいただいた人気シリーズです。手前味噌ではありますが、心穏やかなお暇つぶしにはぴったりかと思えます。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて、ご挨拶もまだのところを宣伝ばかりで失礼いたしました。私は神奈川県逗子市で生まれ育った、二人の子供がいる四十一歳の母親です。社会人になってからは長く東京で塾講師として働いていましたが、岸和田出身の夫と結婚したことがきっかけで家族で岸和田に引っ越しして参りました。岸和田で暮らして今年で五年目になります。

家族経営の自営業で忙しく働き始めた夫、学校で友達ができてすぐにネイティブな大阪弁を習得した子供たちと比べて、細々と小説を書く主婦の暮らしというのはずっと家にもってしまふことが多く、さらにコロナ禍が重なり、最初の頃はホームシックで落ち込んでおりました。夫のやりがいのある仕事、子供たちの親戚に囲まれたのびのびした暮らし、その他、健康や金銭的なものも含め、いろんなことを綿密に考慮して決めた引っ越しのはずでした。しかし半径500キロ以内に私の友人知人が誰もいない場所で暮らしていると、とても孤独な気持ちになりました。

とにかく生まれ育った場所で、ほっと一安心したい。関東の同じ言葉を喋る人たちの間で、絶妙な言葉選びや間の取り方を楽しむ『内輪、の会話をしたい。そんな気持ち』が常に胸の中に渦巻いていました。

岸和田で、泉州弁で相手が話している内容、伝えたい『情報』はすべてわかります。けれども相手がどんな気配りでその言葉を選び、どんなニュアンスを伝えたいのか、という『感情』の部分は正直さっぱりわかりませんでした。四十年近く生きてきて、他者に対してそんな気分になったのは初めてのことで衝撃を受けました。そして同時にその時が「言葉が違う」ということはすぐく面白いことなのでは、と気付いた瞬間でもありました。

ここでの猛烈な居心地の悪さを、ぜひ小説にしてみたいと思いました。そこからは喫茶店にほぼ毎日通い、近くの人のお話を聞きながら

せて、さらに岸和田出身のタレント、辻イト子さんに取材をさせていただいた会話の録音をひたすら聞き続け、全力で泉州弁の上達に努めました。泉州弁を聞きまくり、そして試行錯誤しつつ小説として文章にするようになるうちに、少しずつ岸和田への愛情が増し、世界が広がっていくのを感じたのを覚えています。

それから数年、2023年8月に、ついに現代の岸和田を舞台にした小説「おばちゃんに言うてみ？」（新潮社）を刊行することができました。先述のタレント辻イト子さんの人生を参考に、全国の人たちが期待する「大阪のおばちゃん」という存在をテレビで演じる、大阪のおばちゃんの物語です。ややこしくて申し訳ありません。

主人公のとし子は、岸和田で家族の介護をしながら玉ねぎ畑で働きつつ「大阪のおばちゃん」エキストラのタレントとして、小さなタレント事務所に所属しています。日々の暮らしに辛いこと苦しいことも数多くある中で、とし子は、ヒョウ柄パンチパーマで道行く人にアメちゃんを配る、いかにもな「大阪のおばちゃん」としてのタレント活動に生きがいを感じています。

そんなとし子が東京で、岸和田で、さまざまな人々と出会い、出会った人たちの人生を変えていく物語です。ラパークや、春木駅、岸和田駅、もちろんだんじり祭も登場します。岸和田の方にだけはわかっていたいただけるような、とても些細な小ネタをいくつも仕込みました。義母からの噂によりますと、岸和田市の図書館では予約がたいへん盛況で、貸出までにかなりのお時間をいただいておりますとのこと。たいへん光栄で嬉しく思っております。

書店で私の本をご購入いただきました方には、いつも心を入れてサインをさせていただきます。ぜひお知り合いを辿って、お知らせを頂きますと幸いです。（こちらの協会理事さんが義母の習い事の先生でいらっしゃるそうです）

よそから来た人にとって、岸和田というのはこんなふうにも見えるのかと、ぜひ広いお心で、お楽しみいただけますと幸いです。

これからも家族一同、どうぞ仲良くしていただけますととても嬉しいです。よろしくお願ひいたします。



『熊沢友雄日記』

～岸和田藩士の暮らしをたどる～



嘉永五年(1852)から明治二十八年(1895)までの間記述された『熊沢友雄日記』。このページでは岸和田まつり関連の日記を抜粋しご紹介していきます。

※月日は新暦

明治二十二年 (1889)

九月六日 明七日は当地氏神岸城神社秋祭に付、
(本年日換り) 檀尻も出るとの事に付、
過日より親類・懇意の向へ夫々(それぞれ) 来遊の儀、
端書(はしがき)を以て申遺置之処、吉水よりは…
檀尻は早晚より引出し非常の混雑なり
時々雨降にも頓着せず昨日も引歩行候事
但、右祭事来客に付、本日より森樵太を雇入、
馳走の手伝をなさしむ

九月七日 氏神祭礼なり
例年丸餅及御膳等を献備する処、
本年は服穢(ぶくえ)有之、其儀無之
来客はさし支(つかえ)有之向多く…

明治二十三年 (1890)

九月二十五日 明日氏神祭礼の日
① 普請落成に至らざるも右祭典に付、
押て正遷宮式のみを執行するにより、
例の株々招聘の儀申入、
昨日を以て取計(とりはからい)置之処、
本日午前吉水より老母・おのふ并(ならびに)おちの、
下女老人来る 一兩日滞在なり
但、本日来明より諸町檀尻引出し
雨天なるにも拘わらず頗る雑踏する(旧8/12)
九月二十六日 門外に神灯を出し祭日の設(しつらえ)例年の如く、
一汁二菜外に二、三の下物(げぶつ=酒の肴)を
以て客を饗応す
但、本年は如何の都合か来賓無く、
吉水の外、真上森田氏入来有之計にて、
其余は無届不参なり
コレラ病も未だ全く除かず、
右らの②遠慮等によるか

- ① 岸城神社修復
- ② コレラ蔓延につき来客少数



明治22年、23年と雨天になった祭礼。あいにくの天気にも関わらず、祭りの賑わいは変わらないようです。今に連綿と続く「だんじり愛」ですね。熊沢友雄の略歴を見ると、明治22年6月に後妻・久を亡くしています。手伝いを雇ったのはそのためでしょうか。服喪期間であったため、氏神様へのお供えは控えています。日記からは神仏への距離が現代よりずっと近いことが感じられます。度々記載されるコレラですが、明治23年には長崎県から進入し、死者35,227人、患者46,019人という大流行となりました。この年の9月に和歌山県串本沖で遭難したオスマン帝国の軍艦エルトゥールル号でも、寄港中、多くの海軍乗員がコレラに見舞われたそうです。

Cultural Hot Spot In Kishiwada

岸和田の文化ホット情報

旭地区公民館クラブ ベリーダンス ラミール

ベリーダンスといえば、あでやかな衣装と魅惑的な女性を思い浮かべます。このエキゾチックなダンスのクラブがあると聞き、旭地区公民館を訪問し、講師のAkiyda先生と代表の岩木さんにお話を伺いました。



発表会(マドカホール)

ベリーダンスは、トルコやエジプトなど中東の踊りです。王侯貴族ではなく、民衆のための手軽なダンスなのだそうです。「ラミール」は公民館の講座からクラブとなり、今年で4月で10年目を迎えました。現在30代から70代までの15名が活動しています。

Akiyda先生がダンスを始めたのはお友達に誘われたから。20年ほど前のことでした。当時、育児のまっただ中でおしゃれからも遠ざかっていた先生は「子育てで私の人生終わるのかな、自分の時間が欲しい」とベリーダンスの世界へと飛び込んだのだそうです。今は和歌山を拠点に、各地でレッスンをしておられます。

ベリーダンスを始めて良かったことと聞くと「度胸がつかえました！」岩木さんが即答してくださいました。3月9日に旭公民館でのミニフェスタを終え、昨年10月にはマドカホールでも発表をされています。こうして観客の前で踊るごとに自信をつけてこれたのでしょう。



レッスン(旭公民館)

そんな岩木さんにご主人様は「あなたが楽しんでエンジョイしているなら、それでいいよ」と言ってくださるのだとか。恥ずかしいと公演にはなかなか来てくださらないようですが、素敵な応援をもらっているのも励みになりますね。先生からは「1番はコミュニティに参加すること。踊ってインナーマッスルや股関節を鍛え、お腹を温めるので美容や健康にいいんです。女性のためのダンスですが、最近は男性で始める方もいるんですよ」と、魅力を教えていただきました。確かに姿勢やスラリとした姿の先生はとても綺麗で、なるほど！と納得してしまいました。

これからの目標は人数を増やすこと。仲間が増えると活動の幅が広がる。10代の若い世代にも、ぜひ参加してほしいそうです。「ベリーダンスを知って欲しいし、やってほしいんです。現代社会は孤独化が進んでいます。一歩踏み出してコミュニティに参加してください」とAkiyda先生。「お腹をだすので尻込みする方がいるんですが、練習ではお腹はだしませんよ。気軽に見学から来てみてください」と笑っておっしゃっていました。

お話を伺った後、練習風景を見学させていただきました。グループ分けの話し合いや振りの練習、どの時間からも皆さんの仲の良さが感じられ、Akiyda先生のさっぱりとした明るい雰囲気そのまま皆さんにも広がっているようでした。お話の中で何度かコミュニティという言葉が出てきましたが、踊ることはもちろん、人の輪を大切に活動していることが伝わってきました。

(取材:黒木・小末)

ベリーダンス ラミール

旭地区公民館

〒596-0825 大阪府岸和田市土生町4丁目3番1号

Tel : 072-428-6711

月2回 第2、4土曜日 AM10:00~11:30

※見学希望は公民館までご連絡ください。

泉州の 近代建築 vol.5

岸和田が誇る歴史。寺社仏閣や城下町はもちろん、趣ある近代建築も忘れてはなりません。その魅力や特徴を、大阪府ヘリテージマネージャーの山岡邦章氏にご紹介いただきます。

「岸和田城」編 Part III

岸和田城の建物のゆくえ

大阪府ヘリテージマネージャー 山岡 邦章

前回、市民の意思によって再建された「岸和田城」について記した。では岸和田城にあった建物はどうなったのだろうか。建物の行方については、詳細がわかるものがない。その中で「泉佐野の歴史と今を知る会」の会報221号に、聴き取り調査で、阪南市の鳥取庄の古谷邸には昭和6年に岸和田城から「月見亭」という建物が茶室として移築されていたという話がある。しかし城の建物はいわゆる「廃城令」に伴い、明治4～6年という早い段階で解体されており、古谷邸には昭和に移築という話であるため、およそ50年間は別の場所にあったようである。幸いにも聞き取りを行う機会があり、月見亭に居住していた経験があるご当主から、記憶を元に手書きの建物の平面図等を提供いただいた。

史料では、岸和田城には月見櫓という櫓が存在したことが知られており、古谷邸の「月見亭」との関連が予測される。また当然、そういった形で民間へ移築された建物が他にもあったのではないかという推測も成り立つ。しかし残念ながら「月見亭」の建物は昭和9（1934）年の室戸台風の影響を受けたあと放置され、離れとして居住にも使用されたようだが、平成11年に解体。特徴的な小さな瓦や銅葺き用の銅板などが残されている以外は、建物に関して確認する術は残っていない。

古谷氏によると、屋根の小屋組みは釘を使わない組み物のような特殊な構造で、解体して運ぶことができなかったため、岸和田の山手から屋根の小屋組みのまま15～20人の人足を雇い、手で持って2日ほどかけて阪南まで運んできたそうである。写真や略図を検討する限りでは、各地に残るもしくは記録される「月見櫓」「着見櫓」などと異なり、小規模な櫓と言えそうで、岸和田城月見櫓の移築と言うよりは、城内にあった別の建物を「月見亭」と名付けたような印象を受けた。また残された瓦を確認したところ、岸和田城関連施設に特有の「岸仁泉」の刻印が見られ、おそらくこの建物は岸和田城に関連した建物である可能性は確認できた。



月見亭写真 二階櫓か(平成11年撤去直前)

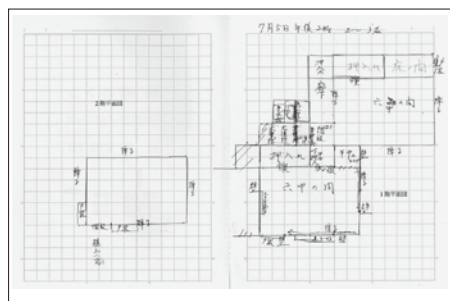
岸和田城の建物のその後については岸和田市で確認できている史料は少なく、あとは建物入手側の史料の発掘を待たなければならない。市内では岸城町に大正6年に建てられた「杉江能楽堂」が存在するが、これも城内にあった能舞台に付属する橋掛かりの一部を旧藩主から譲り受けた建物であるとされる。しかし月見亭同様、明治時代の早い段階で撤去されていたはずの建物部材が、大正時代に再度使用されたことになるなど、撤去後の履歴が不明な点もある。

現段階では、旧藩主は明治4年8月に東京へ転居しているため、城内の建物の撤去を主導したのは堺県であろうと考えられる。しかし、撤去されなかった建物もあるのかもしれない。堺県の出した布告なども検討したが建物の撤去に関するものは見られず、だれがどのようにして撤去し転用がどのように行われたのかは不明である。

以上のように岸和田城内にあった建物は、この「月見亭」の消滅で完全に無くなったと考えられる。歴史に「たら」「れば」は無いが、解体前に知っていたら、と惜まれる結果である。



月見亭写真 二階櫓か(平成11年撤去直前)



「月見亭」見取り図(2010.7.5 聴き取り調査)

※ヘリテージマネージャー(地域歴史文化遺産保全活用推進員)とは、地域社会に眠る歴史文化遺産を発見し、保全し、活用して、地域づくりを活かす能力を持った人材のこと(公益社団法人日本建築士会連合会HPより)



Ichigo-Ichien

夢に向かって



自泉アーティストバンク
浦部 晏未

私は3歳からピアノを始め、それから常にピアノと共に人生を歩んできました。

毎年コンクールに参加したりコンサートに出演したり、そんな日々がずっと続いていくものと漠然と思っていましたが、大学受験のタイミングで初めて進路に迷いました。

高校は音楽科ではなく、英語に特化した高校へ在籍していました。英語の勉強も楽しく、進む大学次第ではこれから全く別の人生を歩むことも出来るのかと、音楽以外の進路を考えた時もありました。

でもやっぱり「これからの人生もずっとピアノを弾いていた、もっとピアノを学びたい」と音楽大学への進学を決めました。

どの音大へ進学するか考えた時に、教わりたい先生がいる大学にしよう、それは恩師しかないと思いました。

昔から先生のピアノが大好きで、コンサートにもよく足を運んでいました。先生の音楽を間近で浴びることが出来る、これ以上の学び場はないと決断し、神戸女学院大学一本で挑んだ大学入試。

入学してすぐに、この選択をして良かったと思いました。先生はどんな時も見捨てず、ずっと熱心にレッスンをしてくださいました。ピアノはもちろん、音楽を続けていく上で大切なことも沢山教わりました。大学卒業後の今でも、先生のレッスンを受けるたびに深い学びと気づきをいただけます。

これからもずっと学び続けて、お客様にピアノの魅力を伝えられるピアニストになっていきたいです。

コロナ禍から生まれた私の夢



自泉アーティストバンク
宮本 涼

私にとって音楽の道に進む大きな転機となったのは、高校1年の秋でした。

かねてから憧れであった三国丘高校に入学しましたが、入学直後にコロナ禍が始まってしまい、全ての吹奏楽部の本番が中止に追い込まれていたのです。部活動の停止も何度もあり、日々の練習すら満足に出来ていませんでした。

私は本番の機会に飢えていたのもあり、ソロコンテストに参加しました。なんとそこで運命の出会いがあったのです。後日、そのソロコンテストを見ていらした方から当時の恩師に連絡があり、声を掛けて頂けたのです。その方が現在の師匠である稲本渡先生でした。

レッスンを通して音楽の更に深いところに導かれていく度に、新しい世界が私の中に生まれ、言葉では表現しにくい感情、喜びや悲しみ、愛や希望を、様々な人々がそれぞれの感覚として共有し、混ざり合う美しさの虜となりました。

三国丘高校から音楽を志す人は本当に僅かでしたが、周りを説得して音楽の道を進むことを決意しました。コロナ禍が無ければ師匠との出会いも無く、音楽の道に進むことは無かったでしょう。そう思えば、この不思議な偶然の重なりも私の運命であり、必然だったのでしょうか。

まだまだ未熟な私ですが、その美しさを演奏会に来てくださった方と分かち合うために、これからも日々精進して参ります。

*岸和田文化事業協会は、自泉アーティストバンクをとおして若い芸術家を応援しています。

Event Report

アンケートからの抜粋

協会主催の事業にご来場いただき、有難うございました。アンケートにご協力頂いた方の感想を紹介させていただきます。

年初め紅白音合戦in自泉

日時:令和6年1月8日(月・祝)午後1時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場者数:110人(内、出演者56人)



〈参加者の声〉

- ◆白組優勝でした。勝負となるとなぜか勝ちたくなり、勝つととてもうれしかったです。
- ◆初めてイベントに出演でき幸せです。普段ご一緒することのない出場者の皆様との交流も刺激になりました。
- ◆いろんなジャンルでの参加があり飽きることのない演奏会でした。運営たいへんだと思いますが、恒例行事にしてほしいです。
- ◆楽しく歌えました。来年は家族で参加すれば面白いかなと思っています。

～見て・聴いて・感じよう～ たのしい音楽の時間へようこそ♪

日時:令和6年2月17日(土)午後2時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場者数:29人



〈皆さんの声〉

- ◆短時間なので、子どもから大人まで楽しむことができました。
- ◆よく知っている曲でリラックスでき、全員参加型で楽しい時間でした。
- ◆透き通る優しい歌声、素敵なピアノ演奏で、時間のたつのが早いと感じました。

自泉アーティストバンク事業 新進ソプラノ歌手たちが奏でる ～オペラアリアからオペレッタまで～

日時:令和6年2月24日(土)午後3時開演

会場:岸和田市立自泉会館ホール

入場者数:58人



〈皆さんの声〉

- ◆日本語オペレッタは、わかりやすくよかったです。
- ◆楽しいひとときでした。日常で癒される素敵な機会でした。
- ◆音楽に詳しくない私ですが、とても面白い演出で、こんな楽しい音楽があると初めて知りました。

文化情報

第75回岸和田市市展への 作品を募集します

自作未発表のものに限ります

- ・資格 平成21年4月1日以前に生まれた方。
- ・作品規格、搬入出日 表のとおり
- ・搬入時間 午後1時～午後7時 ・搬出時間 午後4時～午後7時
- ・出品料 500円
- ・搬入場所 マドカホール展示場(荒木町1丁目17番1号)

※俳画部門と日本画部門の会期が前年度と変更しています。
※壁面展示する作品は、吊るせる状態で出品してください。
※詳しくはマドカホール配布、又はマドカホールホームページ記載の作品募集要領をご覧ください。

会期	部門	体裁	大きさ	出品点数	搬入日	搬出日
1期	洋画	額装(ガラス不可)	10号～50号(53.0cm×～116.7cm×) 版画は自由	1点	5/7(火) 5/8(水)	5/19(日)
2期	写真	パネル張り・額装 (ガラス・アクリル等不可)	写真サイズがA3以上で、仕上がり寸法が 100cm×80cm以内 (縮写真の場合は、1つのパネルや額装の中 に配置し、その仕上がり寸法が100cm×80cm以内)	1点	5/21(火) 5/22(水)	6/2(日)
3期	書	額装・軸装・裱装・衝立 屏風・帖・巻物・刻字・篆刻	仕上がり寸法(縦横自由) 200cm×200cm以内 又は 300cm×100cm以内	1点	6/4(火) 6/5(水)	6/16(日)
	俳画	額装・軸装	6号色紙大(61cm×31.7cm)以上	2点以内	6/5(水)	
4期	陶芸	装飾的付属品は不可 (皿立て、ランプ等)	自由	1点	6/18(火) 6/19(水)	6/30(日)
	日本画	額装 (ガラス・アクリル不可)	10号～60号(53cm×～130.3cm×) ※落款のある作品は、原則受付できません	2点以内	6/19(水)	

問合せ先:マドカホール
電話:072-443-3800(9時～17時) 休館日:月曜日・4/29・5/3～5/5

●一つだけのロビー作品展 展示作品募集

月替わりで自泉会館のロビーに絵画等の作品を展示しています。展示したい方は6月末までにご連絡ください。

【作品募集内容】

- 自泉会館ロビーに似合うと思われる作品
- 20号(72cm×60cm程度)までの大きさ
- 吊るすことができるもの
- 展示無料
- 自泉会館事務所にて作品のお預かりとお返しとなります。

※月に1作品なので展示数に限りがあり、応募多数の場合はご遠慮いただくこともございます。また、展示月の指定もできません。

●第13回自泉ジュニアコンサート 出演者を募集します。

- ◆オーディション日時: 令和6年5月18日(土)午後2時開始
- ◆コンサート日時: 令和6年6月16日(日)午後2時開演
- ◆会場: 岸和田市立自泉会館ホール

【募集要項】

- *ピアノ、声楽、弦楽器、管楽器。打楽器他は要相談(アンサンブルでの演奏は可。但し合唱は不可)
- *対象年齢: 小学生~高校生
- *参加費: 1組につき2,000円
- *コンサートで演奏する曲(8分まで)をご用意ください。(8分以内であれば複数曲可)
- *申込締切日: 4月28日(日)
- ※詳細については、チラシまたは岸和田文化事業協会のホームページをご覧ください。

- ◆申込み・問い合わせ先 岸和田文化事業協会
〒596-0073 岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館
TEL/FAX 072-437-3801
E-mail fontaine@sensyu.ne.jp

●令和6年度 定時総会開催

日 時: 令和6年5月25日(土)午後1時より
会 場: 岸和田市立自泉会館ホール
内 容: ①令和5年度事業・決算報告
②令和6年度事業計画・予算案審議

●第75回自泉フレッシュコンサート

日 時: 令和6年6月21日(金)午後6時30分開演
会 場: 岸和田市立自泉会館ホール
出演者: 中西 友希(ピアノ)
中島 優羽(ピアノ)
森本 優輝(ヴァイオリン)
チケット: 会員前売1,000円(当日200円増)
一般前売1,200円(当日200円増)
定 員: 80名

■チケット販売場所

岸和田市立自泉会館事務所

■申し込み・問い合わせ

岸和田文化事業協会事務局まで
〒596-0073 岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館
TEL/FAX 072-437-3801
E-mail fontaine@sensyu.ne.jp

※事業の詳細・チラシは、岸和田文化事業協会ホームページにも掲載しています。

令和6年度(2024年度)(2024年4月~2025年3月)

会員募集

年会費 個人会員(1口) 2,000円 団体会員(1口) 5,000円
家族会員(1口) 1,000円 法人会員(1口) 10,000円
(個人会員の同居家族) 特別会員(1口) 50,000円
入会方法 協会事務局(自泉会館)で直接受付致します。
郵便振込の場合は 口座番号 00970-9-28145
加入者名 岸和田文化事業協会

詳しくは、岸和田文化事業協会事務局まで
TEL/FAX 072-437-3801 Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

お知らせ

会員の方は8面に文化情報を掲載することができます。掲載希望の方は事務局までお越しいただき用紙にご記入ください。多数希望の方がいらっしゃる、当協会主催の事業がたくさんあるなど、ご希望に添えない場合がございます。ご了承ください。
※自泉会館をご利用の際は、咳エチケットにご協力ください。

お願い 岸和田文化事業協会でも取り上げてみてはどうかと思われるコンサートや展示会がございましたら、ぜひ事務局まで案を届けてください。今後の参考にさせていただきます。

nouvelle
Fontaine

vol.82

発行: 岸和田文化事業協会

発行日: 2024年4月25日

- ◆事務局
〒596-0073
岸和田市岸城町5-10 岸和田市立自泉会館内
TEL/FAX 072-437-3801
Eメール fontaine@sensyu.ne.jp

- ◆編集委員 小末もとえ・小木首由季・黒木幸子
協力 近江和代・本郷元子

編集後記...

窓辺で猫が心地よく日向ぼっこしています。忙しい毎日をごさされている皆さん、たまには窓辺の猫になりましょう。(黒木)

<https://jisen.jp>



岸和田文化事業協会

検索

